

平成30年度第2回三重県総合教育会議 議事録（概要）

- 1 日 時 平成30年7月20日（金）14:00～16:00
- 2 場 所 J A 三重ビル 5階 大会議室
- 3 出席者 知事、教育長、教育委員3名
明野高等学校生徒12名（議題1のみ）
鳥羽高等学校生徒9名（議題1のみ）
- 4 議 題 ・ 県立高等学校の活性化について
・ 平成29年度教育・人づくり施策の振り返りについて
- 5 主な意見 ○：教育長・教育委員、●：知事

< 県立高等学校の活性化について >

【生徒による取組発表】

◇明野高等学校

J G A P 認証取得への取組を通して、自分たちが得たことや地域に貢献したと考えること、今後の目標などについて発表がありました。

◇鳥羽高等学校

地域研究サークル「とぼっこくらぶ」が取り組んでいるツアーガイドや県外の高校との交流、観光甲子園への挑戦などの経験を通して成長したこと、今後の目標などについて発表がありました。

【主な意見】

- 県立高校の活性化において地域貢献を目標にすることは大切であり、そのためにはその地域にある高校の活性化は欠かせない。高校が地域の産業振興に貢献できるよう行政の支援が大切であり、より主体的な態度で各地域も関わる必要がある。
カリキュラム等を工夫することによって各校それぞれの取組が学校全体のものとなることが、地域と高校の活性化や志願者の増加にもつながる。
- 生徒の地域外への流出は、保護者が持つかつてのイメージが原因であることが多い。各高校が地域活性化の中心となり地域に向いてアピールすることが大切であり、そうすることによって地域に認めてもらうことが活性化につながると思う。
各活動が個々の教員の指導により成り立っていると、指導教員が異動することにより立ち消えになってしまう。よい取組は「学校としての力」に重きを置いて継続して取り組み育て上げることが大切である。

- 生徒たちが地域の魅力を見つけても、地域の人たちは、その魅力に気づいていないことが多い。高校生の取組を、地域の人々が自分の魅力を誇りに思う（シビック・プライド）プログラムにつなげることが大切である。

地域活性化の取組に、「金を稼ぐ」というビジネスの視点を盛り込み、生産物の販売収入を再投資できるような仕組みがあると面白い。例えば、ふるさと納税の返礼品として、各高校の生産物やサービスを活用することもできる。

- 明野高校のGAPの取組や鳥羽高校の観光ツアーガイドの活動は、地域の中で根付きつつあり、高校が起点となって地域に好影響を与えている。「GAPなら明野高校」「観光なら鳥羽高校」となって三重県を引っ張り、各地域の学校が地域を巻き込んで地域の方とともに考えていくような存在になってほしい。

- それぞれの高校の取組は先進的で素晴らしく、より高い目標を設定して取り組んでいる点も良い。全国の高校生と切磋琢磨することで、更なる飛躍が期待できる。

高校生の取組をより現実的なものとして実社会とつなげるためには、大人が、高校生を子ども扱いしないことが大切である。高校生の先進的な発想や取組、その姿勢に学ぶことは多いが、それらは学校外には伝わりにくいので、教育委員会が関係部局に周知するなど橋渡しをする努力をしていくことが必要である。

<平成29年度教育・人づくり施策の振り返りについて>

- 地域活動等の様々な活動を行う一方で、教科書による学力の保障をきちんと行わねばならないが、その両立をどのように考えていけば良いかが課題。どちらもアシストするシステムは構築されているが、それぞれのセクションでの縦割り感はある。三重の子どもたちが、地域で育ててもらうための支援体制をしっかりとつけていって欲しい。

一方、セーフティネットの取組は充実してきているので評価したい。

- 教育については、学校だけではなく、家庭や地域、企業、行政などの各主体が協力して全体で取り組み、機運の醸成を行い、共創を実現していかなければならない。
- 様々な施策において、何が効果的で何が効果的ではないかについて、しっかり把握していくべきであり、施策同士の効果測定ができるような仕組みが必要である。例えば学力調査で学校訪問をしているが、その効果をどう測定するのか、好例をどう普及、反

映していくのが課題。

- 学力向上施策について、それがどういう効果を上げて、それをどう判断していくかという点はとても重要なことであるので、しっかり議論して考えていきたい。

また、家庭の学習環境については、家庭にどのようにして伝えていくか難しいと実感しており、しっかり考えていきたい。

- 「学校防災」「教員の資質向上」「インターハイ」「競技力向上」の取組について書かれていない。

教育施策大綱を策定した頃より重要度が変わってきているものがある。「医療の人材育成」は、県の施策でも重要なものとなってきているので、大綱の中にどう位置付けていくのかを明確にしてほしい。

また、「高等教育機関の充実」についても重要度は変化してきているので、今年度の成果の検証についてはしっかりやってほしい。

大綱の総論部分についても、どういう進捗になっているか次の見直しの時には表してもらいたい。

以上